

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103965		
法人名	有限会社 きずな		
事業所名	有限会社 きずな グループホームきずな		
所在地	長崎県長崎市矢の平4丁目3番7号		
自己評価作成日	平成23年11月8日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境・在宅での生活を継続できるサービスの提供。 「私だったら・・・〇〇したい 〇〇してほしい」という理念のもとに、個々を大切に「暮らしの継続」をめざして過ごしていただく様に支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームきずな”は開設9年目を迎えた。ご利用者の方々は常に職員を支え、日常生活の中で色々なアドバイスを下っている。新人職員の指導はご利用者も担っており、それぞれのお茶碗などを教えて下さったり、新人職員の夜勤の時には精神的な支えにもなっている。会話が難しい方から「私、あなたの事を大事におもつとよ」と言う言葉を頂いた時には、職員も感動と感謝の思いでいっぱいになった。開設以来、看取りケアも行われてきたが、亡くなられた後、他のご利用者が亡くなられたご本人の手をつなぎ、語りかける姿もあり、葬儀などにもご利用者が参列されている。相手の方を思っている“お悔やみの言葉”も素晴らしい、人生経験を重ねてこられた深さを学ぶ機会にもなっている。日常生活では、小さい頃、夢中になって遊んでいた“お手玉やあやとり”を楽しまれている。車いすの使用を減らし、少しでも歩けるお手伝いを続けており、歩行が困難な方でも浴槽をまたぐ能力が残っている方もおられ、日常の中で生活リハビリが続けられている。24年度、“きずな”は開設10周年を迎える。開設前から支えて下さった多くの方々に心から感謝し、“初心”の気持ちを忘れず、笑顔で歩み続けているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者は、地域で生きる事の大切さを常に理解し、実践につなげている。	職員の離職も少なく、馴染みの関係の中で、ご利用者は日々の生活を送られている。開設以来、多くの方々に支えられての年月であり、以前、ご縁のあった方々からの応援も頂く事が増えてきている。職員全員、出会いの大切さに感謝し、ご利用者も職員も“私らしく”笑顔で暮らせるように“意見交換が続けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて地域の方々との交流も深まり、認知症の方の事を、だんだんと理解して頂いているように感じる事が多くなった。	8名の民生委員さんが三味線演奏に来てくださり、「将来、具合が悪くなったら、ここがよか～」と言う言葉も頂いた。地域の方が遊びに来て下さり、認知症のケアの仕方を伝える場面も増えてきており、おはぎやちまきを作った時には近所の方にもお配りしている。地域の方と何気ない会話を交わせる関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、運営推進会議をとうして、話している。町内の方やタクシーの運転手さん・医療従事者からも、ちょっとしたケアのヒント・言葉かけ等、尋ねられる事が、増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域からの意見をふまえ、サービスの向上に生かすように努めている。	2か月に1回の会議も定着しており、待機されているご家族も参加して下さい。民生委員の方等も、ご利用者と顔馴染みになって下さり、“あの時の街並みは・・・あの頃は・・・”と言う昔ながらのお話をして頂いている。地域情報も頂けており、ご利用者とともに有意義な時間を過ごすことができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との、情報交換やケアのサービスの取り組み状況を伝え協力関係を築いている。	運営推進会議以外にも、市役所を訪れた時や会議、研修時などに、ホームの状況やご利用者の様子を報告している。年に1回訪問して下さる介護相談員の方には、一緒に昼食を食べて頂き、ご利用者とお話をして頂いている。長崎市から“キャラバンメイト”の依頼があった時には研修先（銀行）を紹介し、地域包括の方と劇を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員、代表者は、事業所内、外の研修会に積極的に参加し理解に勤め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ご利用者の不安や混乱に寄り添い、その時のお気持ちに応じた声かけ等を行ってきた。病状によっては、ご家族・主治医との相談を続け、専門病院での治療入院をして頂いた方もおられる。“身体拘束をしないケアの方法”を、在宅で介護しているご家族、医療機関に紹介する等、積極的な情報発信も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内の虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について資格取得時の研修や書籍等をとうして学ぶ機会を持ち活用できるように努めている。又そのような事案がある時、相談できる司法書士さんとの協力関係を持つ事が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は利用者や家族に分かりやすく十分に説明を行いご理解して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	引き続き、日常的に訪問したりメールや面会時を活用してご利用者、ご家族が意見や要望を言いやすいように努めている。	代表(管理者)が自宅に訪問し、ご家族とお話する機会を作ったり、面会時やメール等も活用して、要望を伝えやすい雰囲気作りに努めている。ホームでの看取りの希望があり、できるだけご家族と一緒に過ごして頂ける配慮等も行われた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に、運営に関する職員の意見や提案を聞き反映させている	職員の意見やアイデアは多く、会議の時も全員が意見を言う機会が作られている。新人職員にもわかりやすい申し送りの方法を検討したり、ケアのポイントが一目瞭然にわかるような「申し送りシート」を作成するなど、業務改善が続けられている。優しい職員が多く、思いやりを持って仕事をしており、チームワークも更に良くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ご利用者の方々と職員が互いに支え合い生活を楽しむ事ができ、職員が向上心を持って働けるような職場環境となるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者内、外の研修会に積極的に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会をつくっている。連絡協議会での今年度は、事例発表も行いその事により交流が増えた。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事、不安な事、してもらいたい事等、寄り添い耳を傾けながら安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、要望、思っていると言えないような事も信頼関係を築きながら、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で必要としている支援を見極め柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者と共に生活する事の大切さを理解し、お互い助け合いながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族とご本人の絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を大切にしよう良い信頼関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの方々、馴染みの場所との関係が、途切れないように可能な限りご家族とも協力しながら支援している。	新しく入居された方の生活歴や出身地を運営推進会議でお知らせする中で、共通の知り合いがいることがわかったり、民生委員の方からの情報のおかげで、昔の知人の方が会いに来て下さった。地域に伝わる昔からのお祭りを見学したり、馴染みの公園への外出支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同志の関係を把握し、関わり合い支え合えるような共通な趣味や遊び・家事作業等を、通じてよい関係がもてるよう、また皆さんが心地よく暮らせるよう職員全員で、努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切にしながら相談・支援に努めている。また看取りケアの方のお悔やみに伺った。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中から、ご本人の気持ちに寄り添い、意向や希望の把握に務めている。	ご利用者に寄り添いながら、“その人を知ること”“今、どのような時代におられるのか”等を大切に把握している。テレビを見ながら“ホットケーキが食べたい”等の思いが聞けたり、夜勤の時には色々な話をして下さる。夕方になると「おじゃました」と帰られる方もおられるが、ご本人と一緒に安心できるまで散歩をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過の中での生活歴のしめる位置は最も重要なものにとらえその方らしい生活が出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する能力等を十分に活かす事ができホームの中で役割をもち暮らして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らすために課題とケアのあり方について話し合い改善し実践しサービスに反映させている	できることはして頂いており、計画の中にも、“洗濯物を干す”“新聞折り”“ほつれを縫って下さる”“茶碗を洗う”などの役割が盛り込まれている。“お手玉”“あやとり”等のご本人の特技や楽しみと共に、“ご主人の面会に行く”“娘さんとお散歩”“ご主人との2人の時間を過ごす”など、ご家族の役割も書かれている。	かかりつけ医等にもアドバイスを頂き、計画が作成されており、ご本人の役割なども計画の中に増やしてこられた。今後も引き続き、ご家族の役割を提案しながら、計画に盛り込んでいければと考えられている。ご家族とご本人の“きずな”をより深めていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきを個人記録に記入し実践や計画の見直しに活かしている。記録用紙を独自の用紙に改正し、より共有しやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。可能な限り希望に沿うように取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご本人から地域資源を聞き取り把握し、豊かで楽しく暮らす事が続くように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及び家族の希望を1番に考えている。かかりつけ医との関係を構築しながらご利用者の方の健康管理に努めている。	月2回の往診以外に、半年に1回は歯科医師、月1回の歯科衛生士、週1回の看護師の訪問体制もあり、異常の早期発見、早期治療に努めている。受診結果については電話やメール、面会時等に報告している。入院中のお見舞いは、他のご利用者も一緒に行かれ、ご本人がとても喜んで下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中での気づきや情報を訪問看護師や医師に伝え相談している。また予防にも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が安心して入院生活がおくれるように病院関係者にケアのコツ等、伝えている。入院時は面会の許す範囲内で、複数回お見舞いに行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについて、ご本人やご家族と入所の契約時に話題にしている。最後をどのように迎えたいか・・・またどのように迎えさせたいのか・・・を、考えるきっかけづくりを行うように努めている。	重度化や終末期の対応について、かかりつけ医、ご家族と一緒に、納得がいくまで話し合いが行われ、職員と共に方針の共有が図られている。終末期には、できるだけ、ご家族と一緒に過ごして頂けるようにと、ご家族用の寝具と食事を提供し、ケアに関しても娘さんと職員が一緒に行うことができた。「最期までここで・・・」と言われる方が多く、精神誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えた避難訓練を定期的に行っている。	23年2月と8月に、ご利用者・スプリンクラー設置点検業者と方と、夜間想定避難訓練が行われた。点検業者の方からはこたつを使う時の留意点や避難のアドバイスも頂いている。消防署の方も2年に1回はホームに来て下さり、地域の方の協力が頂ける事の確認もできている。食料や水などの備蓄の準備もしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行っている。	ご利用者のことを知る努力を続け、その方に合わせた声かけを行っている。羞恥心への配慮も行い、介助の前には必ず声かけを丁寧に行っている。ケアされる内容をご本人が理解できれば、拒否をされる方もおられないとの事で、ご利用者の気持ちを大切にしたケアが行われている。個人情報の管理も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を表したり自己決定できるように生活歴をふまえたケアを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間をずらしたりまた居室で食事をとる等、ご利用者のペースを大切にできるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、ご家族に好みの色、好きだった服等たずねておくように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事できるように、個々の好みや食習慣を職員は把握している。またそれを食事の時に活用している。	3食とも宅配サービスを利用しているが、栄養バランスが良く、家庭的な献立も多く、“美味しい”と好評である。その日の献立によっては、冷蔵庫にある食材を使い、ご利用者と一緒に料理をされており、“食事を作る”事を忘れない取り組みも行われている。22年末に“餅つき機”を購入し、ご利用者と餅つきを楽しむ事もできた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を、1日を通じて確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように又、誤嚥性肺炎の発症の予防のためにも毎食後の口腔ケアを行っている。月に1回の歯科衛生士さんによる口腔内の健診をおこなっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし個々の排泄パターンを把握し時間をみはからっての誘導等を行い、排泄の自立にむけ支援している。	トイレでの排泄支援を大切にしている。一人ひとりの排泄感覚に合わせて声かけを行っており、失敗の回数を減らす事ができている。失敗が無い時には職員も一緒に喜んでおり、ご本人も嬉しく思っている。羞恥心や不安を軽減するために、ドアを閉めたり、“これからオムツを変えますから”等の言葉かけは必ず行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、排便コントロール・予防に努めている。(ヨーグルト・寒天を日常的に摂取して頂いている。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように時間帯・タイミングを合わせている。入りたくない方に対しても入浴日を変更し、気持ちよく入浴できるように支援している。	菖蒲湯を楽しまれたり、気の合う方と入浴し、お湯をかけあう姿も見られている。“ここが温泉”と言って下さり、職員との会話も楽しんでいる。安全のため、職員2人で介助する時もあるが、浴槽をご自分でまたげる方も多い。拒否される時には天気の話等をして声かけの工夫もしているが、無理強いはいないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状況に応じて生活リズムを把握し、休息が必要な時には気持ちよく休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の、病状・服薬内容・副作用を職員は理解し状態の変化及び合併症の予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに役割があり張り合いのある生活が出来るように個々の生活歴を把握しホームでの生活に活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって外出できるように、ご本人、ご家族に働きかけている。またご家族だけで困難な場合は職員が付き添っている。	寒いのが苦手で、散歩よりもホーム内で過ごす事を好まれる方も多いが、外出すると喜ばれる方もおられ、庭での日向ぼっこやホーム周辺の散歩等は行われている。季節に応じて、ランタンフェスタを見に行かれたり、お寿司を食べに長崎市新漁港への外出も行われ、昔から馴染みのある公園に桜の花見に行き楽しんで頂いている。ご家族と一緒に食事や外出をされている方もおられる。	外出にお誘いしても「いや、行かない」と言うお返事が多いが、今後も引き続き、声かけの仕方を工夫しながら、四季折々の花を見たり、ご利用者が大好きな食事を楽しむ機会を増やしていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さを理解しており、ご家族と相談の上、ご利用者は現金を所持しておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、大切な人にご利用者自らが電話ができるように職員が変わってダイヤルしたり伝言したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、ご利用者にとって不快・混乱を招く事がないように温度・光・音・等に配慮している。生活感や季節感が感じられるように掲示物や花・季節の行事や献立を生活の中に取り入れている。	玄関には、こたつやソファが置かれ、ご利用者と職員等が会話を楽しむ空間となっている。廊下や2階への階段にも手すりがあり、あえて段差をなくさず、リハビリを兼ねての移動ができるようにされている。来訪された方から、「段差や階段があっても、高齢者が生活できるのだ言う考えに改めました」とのお言葉を頂いた。日常の中で生活リハビリが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、個々のお気に入りの椅子やソファ・居場所を工夫し提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、なじみの品々に囲まれて暮らせるようにご家族、職員間で相談して心地よい空間作りに努めている。	民家を改装しており、天井も壁も電気も自宅で過ごしている気持ちになれる。ベッドの横にこたつを置き、ご家族と昼食を食べる方もおられ、仏壇やたんす、テレビ、ご家族の写真等、大切な物を持ち込まれている。お部屋の入り口には、娘さん手作りの表札が掛けられている方もおられ、思い思いのお部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLに応じた安全な環境作りに努め工夫をしている。		

事業所名：有限会社 きずな グループホームきずな

作成日：平成 24 年 1 月 5 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	日常的な外出支援に努めていく。	ご本人(またはご家族)の好きそうな所や、思い出の場所に行けるように支援する。	外出が苦手な方々に対しても家族の協力をいただく等、工夫しながら季節を感じられるような機会を増やし、ご家族との思い出を作っていきたいと考えている。	12 ヶ月
2	10	今後もしもご家族が担っておられる役割を、支援内容に組み込んでいく。	ご家族が担っておられる役割をサービスに活かしたり、こちらからサービスに活かせるように提案していきたい。	ご本人・ご家族のきずなを深めていくような支援を行っていきたい。	12 ヶ月
3	3	今後も引き続き「認知症を患っても、生活を楽しむ事が出来る」という事、また、ご利用者の心に響く言葉や感動を地域の方々に伝えていきたい。	言葉や感動した時の様子をご本人、ご家族、地域の方々及び職員間で共有する。	ご利用者の方々が生活を楽しんでいる様子やその時に発した言葉を、気づきノートに記載したり、写真に撮ったりすることを記録に残し、積極的に運営推進会議やご家族の面会時に伝えたとともに、待機者のご家族にも同様に伝えていきたいと考えている。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月